



東海村

議会だより

2026.1

第63号



目次

12月定例会

12月議会あらまし／委員会レポート	P 2
村政を問う! 〔一般質問〕	P 3~9
まちづくりNewFace／3月定例会日程 (予定) ...	P 10

12月21日に開催された青少年育成東海村民会議
舟石川支部主催の「しめ縄作りと餅つき」

12月議会 あらまし



※全議案の議決結果は
ホームページでご覧
いただけます。

令和7年第4回定例会（12月議会）は、12月1日から18日までの会期で開催しました。12月9日から11日までの3日間に12人の議員が一般質問を行いました。また、12日と15日に令和7年度の補正予算を審査し、最終日18日に議案審議を行い閉会しました。議案審議では、一般会計補正予算など村長提出議案を含む32件を可決しました。

補正 予算

中央土地区画整理事業の 進捗を図るための予算を可決

道路や公園などの公共施設を計画的に整備し、自然と調和した暮らしやすい街づくりを進める「東海中央土地区画整理事業」において、事業の進捗を図るための予算を可決しました。今後、2か所の整地工事が実施され、早期完成につながることを期待しています。

■補正予算総額 7,000 万円



造成工事が行われる 38 街区

委員会レポート

文教厚生 委員会

世田谷区・上尾市を視察しました

文教厚生委員会では、11月13・14日に行政視察を行いました。東京都世田谷区の「ほっとスクール城山」では、学校に通えない子どもたちの居場所として、作品展示された温かな環境や自主性を尊重する職員の姿勢が印象的でした。埼玉県上尾市では、部活動の地域移行を推進しており、専門的な指導や卒業後の継続が可能になる一方、活動場所の確保などの課題もあり、子ども・保護者・指導者と丁寧に向き合う重要性を感じました。



ほっとスクール城山の施設内を見学する委員

原子力問題 調査特別 委員会

三菱原子燃料株式会社を視察しました

原子力問題調査特別委員会では、10月28日に三菱原子燃料株式会社を視察しました。業務概要の説明を受けた後、燃料集合体組立工場、廃棄物管理棟などを見学し、厳格な入退室管理と安全を重視した工程を確認しました。廃棄物管理棟は清潔で、廃棄物が安全に保管されていました。さらに、事故対策訓練等を通じた緊急時対応体制の整備状況も確認しました。安全管理への真摯な姿勢が印象的で、有意義な視察となりました。今後も村内の原子力施設について継続的に視察を行う予定です。



燃料集合体組立工場で説明を受ける様子

村政を問う!

一般質問

岡崎 悟 議員 P.4

- 1 5歳児健診の取組について
- 2 電子投票について
- 3 村松さわやかトイレの洋式化について
- 4 不登校児童生徒への健診支援について

宮本 翔太 議員 P.4

- 1 公立保育園における習い事の導入
- 2 学童保育における災害対応体制
- 3 公金管理の内部統制

三上 修 議員 P.5

- 1 東海第二の対策工事の進捗状況と本村の受け止め
- 2 若者が光り輝くスポーツ推進の展望
- 3 村内医療機関の救急車受入れ能力
- 4 自治会に依頼する各種募金の実態
- 5 マイナンバーカードの普及状況

植木 伸寿 議員 P.5

- 1 生徒指導とキャリア教育の充実に向けた取組は
- 2 大雨対策の情報発信と避難所運営の人的体制は
- 3 健康づくりの推進と予防医療の現状と取組は

大名 美恵子 議員 P.6

- 1 村内の訪問介護事業所の現況について
- 2 自衛隊への18歳及び22歳の個人情報提供は中止を
- 3 東海第二原発の再稼働問題に関する住民の意向把握について
- 4 東海第二原発の再稼働是非判断に向けた政治姿勢に関わって

川崎 克彦 議員 P.6

- 1 学校教員の負担軽減に向けた働き方改革を問う
- 2 団体補助金の概要と監査体制を問う
- 3 東海スマートICの大型車両通行可に向けた取組を問う

村上 志保 議員 P.7

- 1 子どもを暴力から守るCAPプログラムの導入について
- 2 タウンミーティングのこれまでの評価と今後の方向性について
- 3 飼い主のいない猫(野良猫)対策及び地域猫活動の現状と課題について

阿部 功志 議員 P.7

- 1 東海第二原発について村長の認識は
- 2 原発再稼働、村民の同意の取り方は
- 3 避難計画の問題点は
- 4 ごみ処理の課題は
- 5 公共施設での利用者の監視は

川崎 裕弥 議員 P.8

- 1 国際交流及び姉妹都市の在り方
- 2 外国語指導講師(NLT)の活用による現状と課題
- 3 学校単位を越えた地域部活動の推進
- 4 未来を創る人材の継承と育成

恵利 いつ 議員 P.8

- 1 村内11の原子力関連事業所が抱えるリスクの評価と安全対策
- 2 「こども誰でも通園制度」への取組状況
- 3 サクラの木を食い荒らす特定外来生物クビアカツヤカミキリの村内侵入への備え
- 4 「歴史と未来の交流館」は当初計画していた施設として十分に活用されているか

松江 秀明 議員 P.9

- 1 わかもののまちサミット2025の評価
- 2 都市計画マスタープランの改定
- 3 闇バイト関連犯罪・加担防止対策
- 4 防災無線システムの高度化

越智 辰哉 議員 P.9

- 1 休日診療・夜間診療の在り方について
- 2 公共施設のオンライン予約について
- 3 策定したビジョンや計画とそれらを推進する体制について
- 4 地域コミュニティとは異なる「関係性インフラ」の可能性について

※青字の質問を掲載。

※議会ホームページでもご覧いただけます。

Q 東海村議会

検索



問 5歳児健診の実施について 村の考えは

答 令和8年4月から5歳児健診を実施

問 こども家庭庁は、発達障がいを見極めるのに有効な「5歳児健診」の普及を進めている。この有効な健診の実施について考えを伺う。

答 令和8年4月からの5歳児健診の実施に向け、医師や公認心理師、保健師、看護師、保育士等と調整をし、教育委員会指導室や子ども発達支援センター、総合相談支援課等の関係部署と連携協力を行って、実施準備を進めている。「5歳児健診」は、個人の成長や発達を診察するだけでなく、集団生活に



公明党
おかざき さとる 議員
岡崎 悟



健やかな成長を見守る5歳児健診

おける行動面を評価し、社会的な発達の状況を把握することで、発達障がい等のスクリーニングや、子どもと家族、地域社会とのつながりなど、人間関係の豊かさなどを含む個々の生活習慣を把握し、保健指導にもつながるものと考えている。この健診の結果から、就学に向けてそれぞれ必要な支援やフォローアップ体制を検討・調整し、必要な情報を教育委員会指導室や学校に引き継ぐことで、子どもの健やかな成長を支援したい。

問 学童に原子力災害対応体制を

答 学校等と同様の体制を整備する

問 本年7月に本村で発令された津波警報を受け、夏休み中の学童クラブで過ごす子どもたちの安全確保について確認する必要があると感じた。本村の学童クラブにおける避難マニュアルの整備状況は、火災、地震、不審者対応などのマニュアルは整備しているが、原子力災害および津波の対応については現在整備されていない。

答 学校は文部科学省の基準で原子力災害対応が求められる一方で、学童クラブはこども家庭庁の所管であり、同



新政とうかい
みやもと しょうた 議員
宮本 翔太

様の基準が存在しない。学童が制度の空白地帯になっているのではないかと。本村として学校施設等と同等の避難体制を整備するべきと考えるのがいいか。

答 本村の「原子力災害に備えた東海村住民避難計画」において、学童クラブは「学校等」に含まれ、学校施設等と同様の避難体制を執ることとなる。年度内を目途に原子力災害時の危機管理マニュアルを策定し、民間学童クラブに対しても作成の支援をしていく。



テルウェル東海村学童クラブが作成した危機管理マニュアル

問 救急病院の 救急車受け入れ実績は

答 東海病院は昨年度658件



新政とうかい
み かみ おさむ 議員
三上 修

問 救急車が現場に到着後、受け入れ医療機関が決定せず要救助者を乗せたまま、1時間以上現場に停滞する状況が散見されており、救急事業を圧迫している。村内の救急医療機関の救急車受け入れ実績はいかに。

答 令和6年度、村立東海病院は658件、茨城東病院は669件受け入れた。

問 村立東海病院は積極的に救急を受け入れるための体制を長期的な視点に立って整えるべきと考えるが、見解はいかに。

答 今後、医療や介護



現場で活動中の救急車

を要する85歳以上の人口が急増し、医療需要の変化が見込まれる。救急医療をカバーする圏域全体で救急医療を担う施設や人材などの医療資源の不足が見込まれる状況においても、救急医療が身近な地域の中で維持されることで優先課題と捉えている。村民の安心につながるよう、地域医療振興協会と協力し、他の病院との連携や役割分担の中で、村立東海病院の救急受け入れ体制を維持する。

問 児童生徒のキャリア教育の 取り組みは

答 発達段階に応じた自己指導能力を育成



公明党
う え き しん し 議員
植木 伸寿

問 学校での生徒指導として、キャリア教育など児童生徒の発達を促す活動や自己実現に向けた取り組みをどう推進しているのか。

答 キャリア教育では、児童生徒自らが目標を設定し、達成に向けた主体的に行動を決定・実行する「自己指導能力」を高めることや、発達段階に応じた自分で考え、選び、責任を持つ経験を積み重ねる教育活動によって自己理解や自己管理を促す予防的・開発的な指導を重視している。

問 学校では、児童



キャリア教育を目的に小中学校が連携して開催したオープンスクールの様子

生徒一人一人が尊重され安全かつ安心して生活が送れるような風土を教職員の支援のもと、児童生徒自らがつくり上げていくことが大切である。生徒指導について、どう取り組むのか考えを伺う。

答 教職員は、児童生徒の複雑な心理や人間関係を的確に理解するとともに、観察力を持ち専門的・客観的理解に努めつつ、児童生徒、保護者との相互理解を大切にしていく。今後、児童生徒理解を第一に、誰一人取り残さない生徒指導を進める。

問 自衛隊への個人情報 4件提供は中止を

答 法令に基づく場合は提供できると規定



おおな みえこ 議員
大名 美恵子

問 情報提供は何を根拠とし、どんな方法か。
答 自衛隊法第97条は「自衛官募集に関する事務は市町村の法定受託事務」と規定され、自衛隊法施行令第120条の「防衛大臣から資料提供依頼に係る規定」により提出。また、令和3年2月の防衛省人事教育局人材育成課長と総務省自治行政局住民制度課長連名の通知は、「自衛官または自衛官候補生の募集に關し必要な資料の提出を防衛



東海村役場に掲示されている自衛官募集のポスター

大臣から求められた場合は、市区町村長が住民基本台帳の一部の写しを提出することが可能」とする閣議決定の内容だった。
提供の方法は、自衛官募集の対象者の4情報（氏名・住所・生年月日・性別）を紙で資料を提供している。
問 個人の尊厳が重要。除外申請制度の創設と周知を図るべき。
答 自衛官募集の対象者の資料提供を望まない方への配慮として、個人の意思を尊重する「除外制度の創設」について前向きに検討しているところである。

問 団体補助金交付の精査は

答 適宜見直しによる適正な制度運用へ



新政とうかい
かわさき かつひこ 議員
川崎 克彦

問 団体補助金の概要は。
答 団体補助金は、村の施策に沿った公益性の高い事業を対象とし、交付機会の均等を図るとともに、申請から実績報告までの流れや審査基準などの基本原則を規則等で定め、適正な執行に努めている。交付は、申請時に担当課が必要書類等を確認し、財政経営課との合議で決定している。
問 監査の概要と指摘事項の取り扱い。
答 毎年、数団体を選び、出納などの事務執行の適正性を確

令和6年度 財政援助団体等監査報告書	
第1 監査の種類	地方自治法第199条第7項の規定による財政援助団体等に対する監査
第2 東海村監査基準への準拠	令和6年度財政援助団体等監査は、東海村監査基準に準拠して実施した。
第3 監査の対象課室及び対象補助金	
1 環境政策課所管	補助金名 東海村とうかい・環境村民会議環境活動事業費補助金 対象団体 とうかい・環境村民会議 (補助額 3,442,053 円)
2 子育て支援課所管	補助金名 東海村民間学童クラブ運営費補助金

村公式ホームページで公表されている
財政援助団体等監査報告書

認し、担当課へのヒアリングも行っている。指摘事項は担当課で改善策を検討し、事務手続きや要綱等の見直し、団体への指導を行うとともに、全職員に周知し、適正な事務執行に努めている。
問 団体補助金交付の精査の考え方は。
答 団体の公益性や費用対効果、支援の必要性などを関係規則等に基づき判断している。今後も、社会経済状況や村の施策の方向性を踏まえ、必要に応じて見直しを行い、適正な制度運用に努める。

問 タウンミーティングの 評価と今後は

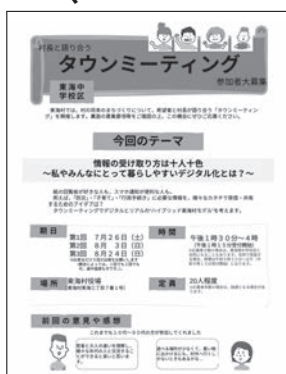
答 一定の成果あるが課題も認識



光風会 志保 議員
村上 志保

問 タウンミーティングの目的および参加者数が定数40名に対し平均7・6人と少ない要因について伺う。

答 村政に対する住民のご意見やご提案を直接伺い、村政運営に反映することが目的。参加者数が少ない要因は、開催日時の都合やテーマへの関心の個人差、村政への関心が薄い層へのアプローチが十分でないこと等も一因。



タウンミーティング
参加者募集のチラシ

委託料は。参加者の少なさにより開催回数が減っても委託料に変更が生じない理由とその妥当性の根拠は。

答 委託料は業務全体に対する包括的な契約となっているが、あえて1回当たりで割り返すと税別約10万円の計算。専門的かつ多岐にわたる業務が含まれており、委託料は適切である。

問 タウンミーティングの開催要綱を定め、その趣旨や開催方法等を明示してはいかかが。

答 形式にとらわれないうち柔軟な運用にも配慮しつつ今後の存り方について検討する。

問 避難用の福祉車両は 1台も登録がない

答 県全体で1万台必要、今後県が検証



あべ 功志 議員

問 原子力災害の避難計画にはさまざまな解決困難な課題がある。県とバス協会の協定では被ばく線量が1ミリシーベルト未満でバスを出す。しかしバス避難の必要な事故は優に1ミリシーベルトを超えると想定され、そうなるバスは来ないが。

答 超える場合は県から自衛隊などの実動機関に協力を要請する。

問 では初めから自衛隊に要請するということになる。バスや福祉車両等を含めて村民全員が30キロ圏外に避難するのにかかる時間は。

答 平成25年県のシ



令和4年に実施された「東海村広域避難訓練」の様子

ミュレーションではUPZ外への避難で22時間30分。

問 それは元気な人が車で避難する時間。自力避難ができない人は含まない。福祉車両は県の配車用システムにこそ5年で1台も登録がない。県内の福祉車両の絶対数が足りないが、県と村で各何台の確保が必要か。今後の車両確保の見通しは。

答 県全体で約1万台必要。村では12人分。今後、県の検証委員会で車両確保の考え方が検証される。

問 新たな国際交流の検討状況は

答 姉妹都市交流の充実と多様化

問 交流継続の財政・人的負担の評価は。

答 交流事業の継続にあたり、物価上昇や燃料価格高騰の影響で航空運賃等が上昇し、財政的負担が増加している。また、訪問団受け入れ時には職員の業務負担が大きいという課題もある。今後は航空会社のさらなる比較検討による渡航費用の抑制と、姉妹都市交流協議会との連携強化により、企画・運営面での協力を得ながら、行政負担の軽減と持続可能な体制整備を進める。

問 新たな国際交流の検討状況は。



新政とうかい
かわさき ゆうや
川崎 裕弥 議員



姉妹都市アイダホフォールズ市を訪れた村の一般訪問団

答 国際交流の充実と多様化を目的に、村民の関心や盛り上がりを踏まえながら、ハワイと台湾を新たな交流先候補として調査・研究を進めてきた。その中で、交流は訪問にとどまらず、教育・文化・産業など多分野で持続可能な関係を築くことが重要と再認識した。今後は国際交流の目的や意義を整理した上で、まずは既存交流の充実と多様化に主眼を置き、着実に取り組んでいく。

問 原子力施設、ドローン攻撃への備えは

答 武力攻撃への対応は求められていない



光風会
えり 恵利 議員

問 村内に11の原子力施設があるが、各施設のリスクをどのように把握し評価しているか。

答 多種多様な原子力施設が立地しており、大小様々なリスクが存在。新規制基準対応等によるリスク対策が図られていると認識。

問 今年7月、玄海原発にドローンとみられる飛行物体が飛来したとの報道があった。各事業所においてドローンなどの侵入・攻撃を未然に防ぐ探知システム等の対策はできているのか。また、保有状況を把握しているか。

答 法律上、事業者に

は武力攻撃への対応までは求められていない。事業者は治安当局と連携して対応していると承知している。具体的な対策や設備の保有状況については、核物質防護の観点から答えられない。



11か所ある事業所のうちの1つ
核燃料サイクル工学研究所の航空写真

問 理不尽さを改めて感じる。村長は、ドローンなどの侵入や攻撃に対応できるシステムを構築するように国に強く要望すべき。

答 村としては、全原協を通じて、国に防護対策の再検証や強化などを要請している。

問 防災無線の高度化の方針は

答 多重化と新技術で情報強化を図る

問 近年、災害が多様化し激甚化する中で、災害時の情報伝達体制を強化することは、村民の命と安全を守るために重要だ。従来の防災無線だけでなく、スマートフォンやテレビ、インターネット、LINEなど多様な手段を活用し、誰一人取り残さない防災情報の伝達体制を今後どのように整備し、進化させていくのか、方針を伺う。

答 防災行政無線（屋外スピーカー等）の老朽化を受け、昨年度から新しいデジタル機器の導入や屋外放送塔の見直しを進めている。



スマートフォンなど多様な手段で防災情報発信へ

る。今後はSNSやスマートフォンなど各種媒体を活用した災害情報発信のさらなる多重化を図る。将来的には、ケーブルテレビや地域BWA（地域広帯域移動無線アクセス）など新たな通信手段についても課題や必要性などを整理し、地域の特性を踏まえた事業展開を図ることが重要であると考えている。地域BWAの活用にはコストや連携可能なサービスについて十分な検討が必要であり、関係部局とも連携・検討していく。



新政とうかい
まつえ ひであき 議員
松江 秀明

問 休日診療の当番医体制は維持できるか

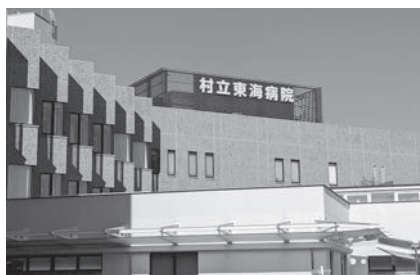
答 制度そのものの維持が厳しい状況

問 本年8月末で東海クリニックが閉院となり、住民の中で不安の声が広がっている。休日診療の当番医体制の現状と今後の課題は。

答 現在、村内6つの医療機関の協力により、輪番制による当番医として日曜・祝日、年末年始を併せて、令和7年度は年間71日開設している。しかし、医師の高齢化や後継者不在等による協力医師の減少が進むことで、各医療機関の当番日数が増加しており、休日診療制度そのものの維持が厳しい状況である。



新政とうかい
おち たつや 議員
越智 辰哉



休日診療全体の35%の日数を対応している村立東海病院

問 すでに休日診療全体の約35%もの受け入れに対応頂いている現状ではあるが、本村の地域医療を支える拠点施設である村立東海病院に対して、さらなる受け入れ枠の拡大について、協力依頼すべきではないか。

答 村立東海病院では、当番回数を多く負担して頂くなど尽力いただいているが、今後のより厳しい状況に鑑み、一層の受け入れ体制の確保について、ご理解ご協力いただけるよう調整していく。

The Kitchen

まちづくり New Face



新たに村に仲間入りした店舗や団体などを紹介。
地域に貢献する活動を応援していきます。

The Kitchen は「自家製」「手作り」を重視し、食材選びから調理法まで丁寧に仕上げた料理を提供しています。ドレッシングやソース、旬の魚料理、燻製、腸詰、内臓料理など家庭では味わいにくい料理を提供し、ハーブやスパイス、ガーリックを積極的に使い、塩分を抑えつつ素材の旨味を引き出すヘルシーな料理づくりに取り組んでいます。フライドポテトなど東海村産食材を使った料理も人気です。

また、ドリンクは厳選ワインに加え、大手メーカーの基準を満たした「特別な一杯」の生ビールを提供できる村唯一の認定店です。

コンパクトながら温かみある店内は居心地の良さを大切に、気軽に立ち寄れる空間を目指しています。今後も東海村に根差したお店として歩み続けます。



赤い外観が目を引く村の小さな洋風酒場

表紙写真の紹介



シリーズ 未来へ 16

青少年育成東海村民会議舟石川支部主催の「しめ縄作りと餅つき」でしめ縄をつくる様子です。
地域の方々の丁寧な指導のもと、お父さんと一緒にお正月に向けた準備。序盤からかなり苦戦していましたが…上手に出来たかな。

傍聴から
はじめよう！

どなたでも傍聴できます。
役場議会棟2階にお越しください。(受付は30分前から)

傍聴の定員は42名



3月 定例会日程(予定)

については
インターネットでライブ配信



映像配信ページ

期 日	時 間	内 容
3月2日(月)	午前10時～	議案上程
3月10日(火)	午後1時～	代表質問
3月11日(水)	午前10時～	代表・一般質問
3月12日(木)	午前10時～	一般質問
3月13日(金)	午前10時～	一般質問

期 日	時 間	内 容
3月16日(月)	午前9時～	予算決算委員会
3月17日(火)	午前9時～	予算決算委員会
3月18日(水)	午後1時～	予算決算委員会
3月23日(月)	午前10時～	予算決算委員会
3月26日(木)	午前10時～	議案審議

※日程は変更になる場合があります。

※議案上程・一般質問・議案審議は、議会棟2階の議会事務局窓口で住所・氏名等を記載するだけで、どなたでも傍聴できます。